

防衛大学校本科第38期及び理工学研究科第31期学生 卒業式における学校長式辞（平成6年3月20日）

防衛大学校本科第38期及び理工学研究科第31期の学生諸君は、本日をもって所定の全課程を終了し、4年及び2年の小原台生活に別れを告げることになりました。

この間、防衛大学校における学生生活の中で、諸君が自らの青春を燃焼し、幾多の収穫と思い出を持って巣立って行かれるその事に対して、私は、心からお祝いを申し上げます。

本日のこの栄えある式典に、国務御多端の折りにもかかわらず御臨席を賜りました武村内閣総理大臣臨時代理^{注(1)}、原参議院議長^{注(2)}、愛知防衛庁長官^{注(3)}をはじめ国会議員各位、また石川前慶応義塾塾長^{注(4)}をはじめ内外多数の来賓各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

また、卒業に至るまでの間、防衛庁自衛隊の関係者各位、官民の諸機関並びに在日米軍、各国大使館等から寄せられた御指導・御協力に対しましても、併せて厚くお礼申し上げる次第であります。また、本校において教育訓練に、生活指導に、あるいは各般の校務に、日夜を分かたず尽力してこられた教職員・指導教官各位の熱意に対しましても、学校長として深甚の感謝と敬意を表するものであります。

更にまた、遠路をも省みず本式典に御参列賜りました御両親・御家族の皆様方に対しましては、今日までの御援助に深く感謝申し上げるとともに、御子弟の卒業を心からお祝いするものであります。

さて、343名の本科卒業生諸君、顧みれば平成2年の春4月、諸君



第6代学校長 松本 三郎

注(1) 武村正義（内閣官房長官）、当時は細川護熙内閣総理大臣

注(2) 原 文兵衛

注(3) 愛知和男

注(4) 石川忠雄

が希望と緊張感に胸を震わせながら、ここ小原台の門をくぐられた日のことを覚えていることでしょう。また入校後もしばらくは、将来幹部自衛官として、その生涯を防衛の職務に捧げようという決意に、若干の不安を感じていたかも知れません。それからの4年間、厳しい団体生活の中で勉学や訓練に励み、幾多の苦しい障害を乗り越え、試練に耐え、諸君は大きく逞しく成長いたしました。かくして、幹部自衛官となるべき決意と資質は揺るぎないものとなり、今や胸を張って堂々と卒業していく諸君を、私は自信を持って送り出すことができます。

タイ王国3名、シンガポール共和国2名の留学生諸君に対しましても、心から祝福を贈るものであります。異なる文化の下で、日本の友人と寝食を共にしつつ学んだこの経験は、必ずや諸君が将来誇り得る豊かな財産となるであらう。

さて卒業生諸君は、これから陸・海・空それぞれの幹部候補生学校において、初級幹部としての専門教育を受けるわけではありますが、諸君の幹部自衛官としての修業は、まさにこれからが本番であります。

いうまでもなく、国家防衛の任は重く、その道は険しいのであります。諸君がこれから立ち向かう専門職業人としての自衛官の道は、決して平坦なものではなく、学生歌にも詠まれるごとく「ゆくてに波さかまく」ものであるかも知れません。

防衛の職務は、本来、縁の下の力持ちで地道なものであります。また、防衛問題や自衛隊に対する世間の理解や認識も必ずしも十分とは言えません。しかし、気力を充実させて逆風に立ち向かい、困難に敢然と挑戦してこそ、そこに道が開かれ、苦しみに耐えてこそ、人間に幅と深さが加わるものであります。勇気ある挑戦と努力の中で成長した人間を社会は決して見逃しません。「人が地位を呼び、地位がまた人を造る」という言葉を、しっかりと記憶しておいて下さい。

諸君が入校以来しばしば耳にしてきたように、本校における教育目的の根幹をなすものは、「優れた武人にして、良き社会人」を育成することにあります。このことは、自衛官としての確固たる使命感を自覚し、防衛の専門分野での知識・技能・体力を修練すべきことはもちろん、一人間として、幅広い教養と豊かな人間性を併せ持つべきことを意味します。防衛大学校の教育は、単に視野の狭い、特殊な戦争技術者の養成を意図したものではなく、広く国家社会の一員として、その職責を全うし得る資質の涵養を目的としていることは論を待ちません。

特に、これから諸君の活躍する21世紀の世界は、あらゆる意味で複

雑化、多様化が進み、内外の情勢は益々不透明で予測し難くなることは必至です。そこでは、いかなる任務に就くにせよ、広い視野と高い視点に立った創造的思考力と的確な判断力が求められることとなります。諸君に対し、幹部自衛官としての不断の研鑽と、気品に満ちた「一人間としての修業」を怠らぬよう強く望む次第であります。

次に、理工学研究科66名の卒業生諸君 - この中にはタイ王国2名の留学生が含まれていますが- 諸君に対し一言申し述べます。諸君は、理工学に関する大学院レベルの専門的知識と技能を修得し、研究すべく2年の歳月を本校で過ごしました。この間、頭脳の充電を図り、将来への大きな飛躍の基盤を培う貴重な体験を積んだのであります。最近の科学技術の著しい進歩は、軍事面においても装備の高性能化、複雑化などの質的変化を生み、軍事戦略及び戦術に大きな変革をもたらしていることは周知の事実であります。今後諸君は、それぞれ新しい任務に就かれるわけではありますが、一層の研鑽に努められ、益々重要になりつつある自衛隊の科学技術分野における発展向上に尽力されるよう、切望するものであります。

さて、諸君の小原台生活の幕は、いままさに閉じられようとしております。これから先、諸君のあとに続く後輩達の模範となるよう、いかなる部署、いかなる境涯にあっても、防大出身者としての誇りを持って堂々と前進して下さい。そして、陸・海・空それぞれに進むべき道は分かればとも、同期生同士その友情と団結を更に強め、お互い力を合わせて、祖国日本の輝かしい将来と国際社会の平和のために挺身して行かれんことを、お別れに当たり心から祈念して私の式辞といたします。

諸君、卒業おめでとう。